



日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画

2026 年 6 月 岩田望来

□はじめに

こんにちは、岩田です。今月も無事に生きています。

残り 1 か月を切りました。時が過ぎるのは早いですね。

メキシコにいられる時間も少なくなり、多くの日墨生が残りの 1 か月を有意義に過ごそうとメキシコ各地を旅しています。かくいう私もその 1 人で、現在 12 月に風邪を拗らせ断念したユカタン半島縦断旅行をしております。この話は来月分のレポートでします。

とはいっても 7 月は延期していたグアナファト研修もあり、オアハカ遺跡巡り旅行もあり、書くことがたくさんあるので、今回のレポートでは軽く研修の総括をさせていただこうと思います。

□研修中 1 番嬉しかった出来事はこれだ！

たくさんのメキシコ人たちに助けられたことです。

特に Xochicalco 観光のとき。確か 4 月頃のレポートにも書きましたが、観光地化されていないので本当に行くのも帰るのも大変で、たくさんの人に助けていただきました。中には「どうしてそこまでしてくれるの!？」というほど助け尽くしてくれる人もいました。ある意味他人に対しては淡泊な日本では中々見られないような人の優しさに触れた経験でした。

私の関心領域は移民問題や多文化共生で、最近は特に倫理感や道徳から考える移民問題に興味がありましたが、メキシコで多くの移民が受け入れられている要因のひとつはきっとこれなのだろうと考えています。困っている人に対してとにかく優しい。見返りなど求めず助けたいと思う。CEPE の教科書曰く「メキシコでは発展するまでの時間が長かったため、助け合いをするということが当たり前になっている」とのことです。

一方で路上生活者をはじめとする困窮者が多い現実もあります。もしも本当に「困っている人がいるなら助ける」が常識なら彼らはとうに救われているはずです。まだまだ考えることは多いなと思いました。

□研修中 1 番楽しかった出来事はこれだ！

遺跡巡り！これが 1 番楽しいです。

古代文明やその謎にロマンを感じるタイプの両親の間に生まれた私は、両親の影響でそういうものに興味を持っており、特にその土地固有の宗教や神話に関心の方向性が向いていました。要するに、メキシコは考古学という名のロマンの塊のような国だったのです。



初めて国立人類学博物館に行った日から遺跡への関心が強くなり、Templo mayor、Teotihuacan、Xochicalco、Tlatelolco、Chichén Itza、Tulum に行きました。Templo mayor は行きやすいので2回行っています。帰国までに Monte Albán、Mitla に行こうと思っています。Tula と Cholula にも行きたいのですがこのあたりは体調と相談ですね（まだ全快とはいえないので）……。Xochicalco が1番刺さりました。行くのも帰るのも大変でしたが笑。

遺跡巡りを続けていくにつれ、家族をメキシコに連れていくという夢ができました。どこを回るかという検討も込めて、帰国までに行けるところには行こうと思っています。

□研修中1番怖かった出来事はこれだ！

これは特定のひとつの出来事ではなく、滞在中何度かあったことです。

ナンパです。私は人生で6回ナンパをされたことがあります但那うち4回がメキシコです。不名誉！数あるナンパの中で1番怖かったのは観劇帰ります。下宿先が近くて家バレするのではないかとヒヤヒヤしていました。

そもそもメキシコでは知らない人に話しかけられることが結構あります。いつかの月のレポートに書きましたが、メキシコでは調べるより先に人に聞く文化があるからです。人に聞く前に自力で調べろと教えられる日本とは真逆です。そのため、特に現在時刻などを知るために、その辺にいる人に話しかけることは多々あります。その他にも、その場に居合わせた人と世間話をしたり、同じイベントに参加しているグループに入れてもらったりと、陽の国だなと感じる出来事もありました。動物愛護団体の広報 SNS に出演してほしいという謎の声かけもありました。これは本当によくわかりません。

ただそれはそれとしてナンパは日本と同様気持ちが悪いです。変なナンパが多いというのはメキシコに来る前に聞いていましたが、想像以上に横行していた印象です。道端を歩いているどう見てもアジア人の装いをしている若い女の子に近づいてくる人がまともなわけがないのです。ナンパかそうでないかは意外と分かります。ナンパは歩いているときに話しかけてきます。それ以外は座っていたり立ちすくんでいたときに話しかけられることが多いです。体感ですが。

メキシコに行く際は気を付けてください。本当に。

□研修中1番辛かった出来事はこれだ！

6月の頭に参加した日本エキスポのボランティアの初日。私が熱中症で倒れる2日前です。1年間で色々なことがありますが、1番辛かった経験といえばこれです。

私は折り紙ワークショップで折り紙を教えていました。毎度のように私の拙いスペイン語をうんうんと聞いてくれるメキシコ人たちの優しさに甘えながらやっていたのですが、ある男の子が鶴を折ったあと、私に以下のように言ってきました。一言一句覚えています。「No entiendo tu español. Estaba complicado “cuarto” y “cierra”」。これを何度も何度も責めるように言ってきたのです。

私もちゃんと説明できているとは思ってなかったのが、（似ている単語はともかく発音が全く違う

cuarto と cierra を聞き間違えたはさすがに言いがかりだろうとは思いつつ)「Lo siento, estoy estudiando español, por eso no puedo hablar español perfecto」と謝りました。しかしその男の子は、今度は英語で全く同じクレームを繰り返しました。

「Lo siento」しか言えませんでした。だんだん悔しくなって、申し訳なくなって、涙があふれてしまいました。今もですが、一緒に来た同じ nivel の友人たちと比べて自分のスペイン語が伸びていないのではないかと、長い間とても悩んでいたのも要因のひとつでしょう。これが点過去ならまだダメージは少なかったかもしれませんが、ガッツリ現在形です。彼の言葉は「1年間メキシコで勉強してきただろうが、それでもお前のスペイン語は理解できないものだ」というのも同義でした。

最終的にその男の子は「Español para ti es japonés para mi」などと言いつつ去っていきました。感謝も一応されました。謝罪されたかは覚えていません。

その翌日、別のメキシコ人の女性に「Tú hablas español muy bien」と言ってもらえました。そのあとも、旅行中や生活中に、多くのメキシコ人に同じことを言われました。彼らは私の事情なんて知りませんから、思ったことをそのまま言っただけです。彼以外のメキシコ人と交流するほどに、彼が突然変異だったということは嫌でも分かってきます。

それでも、うまく通じてもそうでなくても、脳がふとしたときに「No entiendo tu español」を反芻するのはです。褒めてくれた彼らも本当は「コイツのスペイン語全然理解できねえな」と思っているかもしれないと邪推してしまうのです。スペイン語を二度と話したくないと思ったときよりは回復しましたが、正直まだ傷ついています。思い出しては場所も弁えられず涙を流す日々です。

これも異なる価値観を持った人と関わるということなのかもしれません。今まで日本語で関わってくれた日本語以外の話者の人たちも、私が知らないだけでたくさん傷つけられたのかもしれません。中々稀有な経験だったと思いますが、異文化交流について考えるきっかけになりました。

□最近起こった面白かった出来事はこれだ!

最後は楽しく終わります。

ADO の一等バスを使ってカンクン国際空港まで行く際、インサイドヘッド2のスペイン語吹替版がテレビに映っていました。日本語版を含めインサイドヘッドを見たことがなかったのに、クライマックス 10 分だけで号泣してしまいました。生理前とはいえさすがに自分の才能を感じてお世ました。

□おわりに

写真 1 枚も入りませんでした。これを7月のレポートに織り込むのは無理がありましたね。

「はじめに」でも書いたとおり、帰国まで 1 か月を切りました。これまで色々なことがありました。メキシコが嫌いになりかけたこともありましたが笑、今旅行して色々な人と関わるたびに、私はやっぱりメキシコのことが好きだなと思います。帰国後もきっとまた来るでしょう。

終わりの雰囲気がありますがあと約 1 か月!最後までメキシコを楽しみ尽くそうと思います!